



中央アジア地域ニュース

カザフスタン：油田開発及び石油パイプライン関連

(2月21日付「インタファクス・カザフスタン」)

1. 2月21日、イスカコフ環境保護相は、国内最大のテンギス油田を開発する米国シェヴロン系の外資企業「テンギス・シェヴルオイル(TCO)」社に対し、環境対策改善要求を出した。

(1) イスカコフ環境保護相の発言：

TCO社が今後一ヶ月のうちに環境規定違反を改める具体的な対策案を提出しなかった場合、同社の操業権を停止させる為の訴訟に踏み切る方針である。

環境保護省は現在、政府に対する具体的な提言を策定中であり、TCO社が環境規定に合致する硫黄廃棄物処理の為の具体的措置を提案できなかった場合、次の段階として我々が同社の活動を停止する権利を持つことになる。

(注：TCO社の原油採掘活動から排出される硫黄の取り扱いについて、環境保護省及びアティラウ州環境保護局は、これまで数度にわたり警告してきたが、「操業権停止」を示唆したのは今回が初めて。)

(2) TCO社は今月、2007 - 09年の環境プログラムに1,010億テンゲ(約8.1億ドル)を拠出する計画を発表したばかりであった。

2. カザフスタンとポーランドは、将来完成する「オデッサ=プロディ=プウォツク」石油パイプラインを通じてカザフスタンから原油輸送を行う為の二国間作業グループの設置を計画している。

(1) 2月20日、カザフスタンのエネルギー・鉱物資源省と、現地を訪問しているポーランドのナイスキ経済省次官率いるポーランド代表团との間で、同二国間作業グループ設置に関する合意文書に署名がなされた。本件の協議には、カザフスタンの国家石油ガス企業「カズムナイガス」幹部及びポーランド企業「PKN Orlen」社幹部も参加した。

(2) ナイスキ経済省次官は、カザフスタンとの協力に関心を示した上で、3月下旬のカチンスキ・ポーランド大統領のカザフスタン訪問に対する準備も協議の議題であると述べた。

(3) ウクライナは、「オデッサ=プロディ」石油パイプラインをポーランドのプウォツクまで490km延長し、カスピ海原油を欧州まで輸送することを計画している。